

檜葉町駐在現地確認概要(平成29年7月24日～7月28日)

確認日	確認目的	確認箇所	確認状況	プラント関連 パラメータ
7月24日	ゼオライト土囊・シートの効果確認	大芋沢排水路	<p>○構内排水路の浄化対策として設置している、ゼオライト土囊、繊維状吸着材及びシート状ゼオライトの効果について、聞き取り及び現場確認を行った。</p> <p>ゼオライト土囊及び繊維状吸着材は、主にイオン状Csの浄化対策として、シート状ゼオライトは、主にCsを吸着した土粒子の浄化対策として設置しており、検証の結果、繊維状吸着材よりゼオライト土囊の方が多くのCsを回収できたとのことであった。なお、シート状ゼオライトは評価中とのことであった。</p> <p>一方、課題として、大雨時のように流量が多い場合はゼオライト層をすり抜けたり、ゼオライトの量が多い場合は目詰まりしたりするおそれがあるとのことであった。</p> <p>構内排水路(開渠)に設置されているゼオライト土囊の状況を確認した。</p>	12時04分現在
7月25日	K排水路PSF(プラスチックシンチレーションファイバー)モニタ警報発生に係る対応状況の確認	-	<p>○4月1日に警報が発生したK排水路PSFモニタの対応状況について、進捗状況を聞き取りした。</p> <p>警報が発生した原因は、K排水路から測定水槽への水の汲み上げが止まり、PSFモニタが水面から露出して空間放射線を検知したためとのことであった。</p> <p>水の汲み上げが止まった原因は、K排水路の水を汲み上げるサンプリング用ポンプの周りに設置した堰の取水口にごみが付着して目詰まりし、水の汲み上げができなくなったためとのことであった。</p> <p>今後は、取水口を大きくし、ごみが入らないよう取水口にカゴ状のものを被せるとのことであった。また、測定水槽内の水位低下を検知するための警報装置等を追加設置するとのことであった。</p> <p>対策に向けて対応を進めていることを確認した。</p>	11時10分現在
7月26日	H4北タンクエリアの汚染土壌回収作業等の状況確認	H4北タンクエリア	<p>○H4北タンクエリアの汚染土壌回収作業、タンクのリプレース状況及び雨水移送配管の設置状況を確認した。</p> <p>(1)汚染土壌回収作業について</p> <p>汚染水の地下浸透により汚染されたエリア北東側の浅層部と深層部については、浅層部の回収が完了したとのことであった。今後、汚染された範囲を鋼矢板を打ち込んで囲み、地下水の流入を遮断したのち、深層部の土壌を回収するとのことであった。調査時、鋼矢板を打ち込むための重機の搬入道路を整備していた。</p> <p>(2)タンクのリプレース状況について</p> <p>エリア北東側で5基、南西側で8基の溶接型タンクが設置されていた。</p> <p>(3)雨水移送配管の設置状況について</p> <p>エリア南西側の内堰内に組立槽が設置されており、堰内の雨水を集水する耐圧ホースが設置されていた。組立槽からは耐圧ホースが1本出ており、堰内に設置されたヘッダー管を介して堰外に移送されていた。</p> <p>これらについて、計画どおりであることを確認した。</p>	11時50分現在
	H4タンクエリアの雨水移送配管の設置状況の確認	H4タンクエリア	<p>○H4タンクエリアの雨水移送配管の設置状況を確認した。</p> <p>当該エリアは、タンクがすべて撤去されていた。エリア西側の内堰内には雨水集水ピットが残っており、耐圧ホースが複数本設置されていたが、堰内雨水を外堰の側溝へ移送する耐圧ホースのみ使用されていた。</p> <p>タンクエリアのリプレースの進捗にあわせてエリア内雨水の移送が行われていることを確認した。</p>	
7月27日	1号機建屋カバー解体に伴う小ガレキ保管コンテナのモルタル固形化作業の現場確認	4m盤(4号機東側)ヤード	<p>○1号機建屋カバーを解体した際、ダスト飛散防止対策として散水しながら吸引器で小ガレキを吸引しコンテナに収納したことから、コンテナ内には小ガレキと水が入っている。今回、コンテナ内の残水の固形化処理の状況について、現場確認を行った。</p> <p>ダスト飛散防止対策として、コンテナ周辺等に飛散防止剤を散布しながら、タンクステンベストを着用した作業員がバックホウを操縦し、小ガレキの移し替えやセメントの投入、コンテナ内の残水を攪拌し、固形化処理する様子を確認した。</p> <p>現場作業員によると、コンテナ26台のうち21台の処理が終わり、7月末までに完了するとのことであった。</p> <p>計画どおり作業が進んでいることを確認した。</p>	11時48分現在
7月28日	6号機燃料プール冷却浄化系ポンプ誤停止に係る対応状況確認	6号機原子炉建屋	<p>○6月5日に発生した6号機燃料プール冷却浄化系ポンプの誤停止について、再発防止対策が完了したことから、現場の対応状況を確認した。</p> <p>誤停止を起こした現場である4階の操作盤は、操作盤全体に網状のカバーが取り付けられ、原則使用できないようにされており、スイッチには誤操作防止用のプラスチック製カバーが取り付けられていた。また、スイッチ取付リングの緩め禁止である旨と当直長の許可なく操作禁止である旨が表示されていた。</p> <p>なお、建屋5階の操作盤についても、同様の措置が取られており、再発防止対策が完了していることを確認した。</p>	11時28分現在

※プラント状況については、プラント関連パラメータをご参照ください。